坂さんぽ④

「亀割坂（かめわり）」

柏崎西端の鉢崎（現米山町）から鯨波までは「米山三里」と言われる交通の難所だった。この「米山三里」に「亀割坂」はあり、上輪と上輪新田との間に高低差約４０mの長くくねった険しい道が続いたとされる。

亀割坂の近くには、現在も安産・子授けの神として大勢の参拝者が訪れる「胞姫（よなひめ）神社」がある。天保３年（１８３２年）、胞姫神社の縁起ではその名の由来を源義経の嫡男出産伝承として説明している。

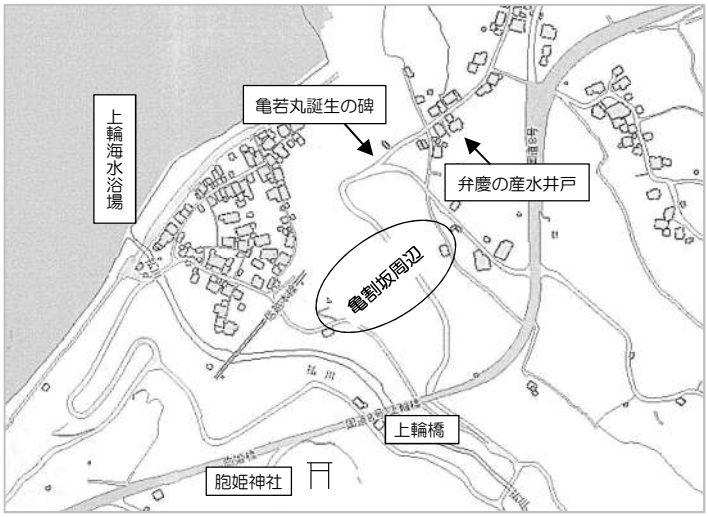
歌川広重『山海見立相撲　越後亀割峠』
柏崎市立博物館蔵

文治２年（１１８６年）、源義経一行が奥州へ向かう途中、上輪の亀割坂へ差し掛かったところ、北の方（正室）が急に産気づいた。苦しむ北の方のため、亀割坂に仮の産所を設け、弁慶が近くの社の前で祈願。するとたちまち北の方の苦痛がやわらぎ、無事に嫡男亀若丸を出産した。弁慶は無事出産の礼に当地鎮守境内に亀若丸の胞衣（えな）（胎児を包む膜や胎盤のこと）を納め、あわせて源氏の氏神である諏訪・八幡の両神を祀ったと言われている。また、弁慶が金剛杖を突いて湧出させた「弁慶の産清水（うぶしみず）」の伝説もある。

延享３年（１７４６年）の「鉢崎組村鑑帳写」によれば、難所「亀割坂」の峠の頂に二軒の茶屋が営業していたとされる。茶屋では安産・胞姫神社にまつわる義経伝説を読み伝え、弁慶の産清水でつくった「弁慶の力餅」を売ったとされている。

このことは、戯作者十返舎一九の紀行文『金草鞋』や歌川広重の錦絵『山海見立相撲』に取り上げられるなど、多くの文献に残されており、「亀割坂」の知名度を裏付ける。

そんな歴史をもつ「亀割坂」も、庶民の旅が徒歩からその他の移動手段に変わったことに伴い、現在は草が生い茂り通ることが難しい。



亀割坂の周辺地図

上輪新田町内会長・地域の皆様から周辺を案内していただき、お話も伺うことができました。ありがとうございました。

●参考にした資料
『描かれた《ふるさと》』柏崎ふるさと人物館編（２９２ Ｋフル）　『金草履』十返舎一九著（９５０ シツ）
『柏崎編年史』新沢佳大著（２２４ シン）　『柏崎の民俗と余録　山田良平遺稿集』山田良平著（３８２ ヤマ）
『柏崎市伝説集』柏崎市教育委員会編（３８８ Ｋキヨ）　『柏崎のいしぶみ　第１集』山田良平著（２２４ ヤマ）
『柏崎市立博物館　館報　第２４号』柏崎市立博物館編（０６９ Ｋハク）
『ふるさとの歴史』柏崎市市史編さん室編（２２４ Ｋシヘ）